第４組正蓮寺候補衆徒　小川辰雄

私たちは日頃、「時間がない」「ひまがない」「忙しい」こういう言葉をよく口にします。最近では忙しいのは大人ばかりではなく、子供たちまで遊びを奪われ「将来のために」と塾や習い事などに時間をかけ、忙しい毎日を過ごすようになりました。

では、日々時間に追われて過ごす私たちにとっての「時間」とは、いったい何でしょうか？
私は、ある先生から「時間」をテーマにしたミヒャエル・エンデ作　大島かおりさん訳の「モモ」という童話をすすめられて読みました。読まれた方もあるかと思いますが、この童話は「時間」に追われ、人間本来の生き方を忘れている人々に、モモという女の子が「時間」を取り戻してくれる物語です。

この中でこういうことが書かれていました。人々は時間をうばわれることによって、本当の意味での「生きること」を奪われ、心の中は貧しくなり荒廃していくのですと。この物語で言う「時間」とは、機械的に合わせるということの時間ではなく、人間の心の内の時間、人間が人間らしく生きることを可能にする時間のことです。そういう時間が人々からだんだんと失われてきた事に問題があると言っています。これは現代を生きる私たちの問題と言えるのではないでしょうか

私たちは、スピード化した現代の中で、時間に追われ日々過ごし、「よりよい暮らし」のためにと信じて必死で時間を倹約し、追いたてられるようにせかせかと生きています。目先の欲望ばかりにとらわれ生きています。
しかし、私たちは欲望が満たされたからといっても何か満足できず、むなしさを感じているのではないでしょうか。

物語では、このような時間を過ごさないために、モモが人々に生きることの本当の意味を問いかけ、目覚めさせていきます。そして、時間の豊かさを取り戻し、人間本来の生き方をおくれるようになっていくという事で物語は終わります。
この物語では人々が幸せに暮らせるようになりましたが、私たちはどうでしょうか？時間の豊かさを取り戻すことはできるのでしょうか。難しい問題です。

浄土真宗の教えでは、人間が人間らしく生きることを浄土に生きると教えられています。浄土に生きるとは、いのちに目覚めて生きるものになりなさいという呼びかけです。私たちもその呼びかけを聞き続けることによって、豊かな時間への目覚めを与えられるのではないでしょうか。